

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年において、ムーブノートというアプリを活用した授業を実施することができた。
- ・I C T機器を使用して、調べ学習を行い発表する力が養われた。
- ・デジタル教科書や動画を活用し、生徒の学習意欲を高めるような工夫をした。

(2) 課題

- ・1学年は地理的分野と公民的分野の理解が他の分野に比べて不十分であった。
- ・2学年は地理的分野の知識・理解が目標値に達していなかった。
- ・3学年は基礎的な問題の正答率が高いが、応用的な問題の正答率が低かった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎と活用の正答率は区の目標値を下回った結果になった。		
第2学年	基礎と活用の正答率は目標を下回った結果になった。	基礎と活用の正答率に改善の余地が見られる。	
第3学年	前年に比べて、基礎、活用の分野は、区の達成率を下回った。	基礎、活用の分野において達成率の向上が見られた。	前年度に比べて基礎と活用の正答率は低下している。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本国憲法に関する知識の不足のため達成率が低いように思われる。	歴史的な流れについての考察ができず、思考的分野の正答率が低いと思われる。	記述式で答えながら、深く読み取る力が不足しているように思われる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野では日本の姿、世界の諸地域、歴史的分野では古代の日本の学習の定着が不十分のため、正答率が低かったと思われる。	地理的分野ではほぼ目標値に近づいている。歴史的分では中世の歴史的事項についての考察力はおおむね定着している。	地図帳の世界地図や統計資料を興味深く活用する態度がやや不足しているように思われる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野は日本の諸地域を問う問題、歴史的分野は日本と外国との関連性の正答率が低かった。	複数の資料を関連づけて読み取る問題の正答率が前年度より低かった。	資料をもとに考察し、関連付けて答える問題は目標値を下回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
朝学習時にタブレットにあるドリルパークを解かせ、基礎的な語句の習得を習慣づける。また、振り返りシートに授業の内容を確認させ、復習を行う事で知識を身につけさせる。	タブレットを活用し複数の資料を関連づけさせ、資料などから深く読み取れるように指導し、表現力が向上できるように助言する。	さまざまな資料を調べ、レポートを作成することで世界の国々の特色を把握できるように指導する。歴史的分野は時代背景を学習し、その時代の出来事が今も生かされていることを学ばせる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業での学習内容を精選するとともに、既習内容の復習を常時取り入れる。計画的に宿題を課して家庭学習の習慣の定着を図る。長期休業を利用して、課題や復習テストによって既習内容の定着の徹底を図る。	地理的分野では、資料から読み取れることや諸問題の解決について考察させ、グループでの話し合いや発表を通して学びを深めさせる学習を多く取り入れる。歴史的分野ではテーマ別のまとめを紙面やタブレットにまとめさせる。	タブレットに自分の意見を述べる機会を増やす。歴史的分野のノート作りでは自主的な学習をまとめるページを設定し、肯定的な評価をすることによって主体的に取り組む態度を高める指導の工夫を行う。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的人物の政策、日本各地方の特色を解答する問題の正答率が低かった。時代背景や現代に継承されていることを教えながら指導を行っていく。	資源やエネルギー、日本の工業の特色を分析し、解答する問題が苦手である。タブレットの資料などを活用して、資料を読み取る機会を増やしていく。	地理や歴史の復習プリントを活用し、学んだ内容を繰り返し見つめ直し、自分の課題を捕らえられるように助言していく。